第１学年　道徳科学習指導案

第１学年１組　３４名
指導者　漆川　和美

１　主題名　　ともだちのきもちをおもうこころ

Ｂ－（９）友情，信頼	友達と仲よくし，助け合うこと。

２　主題設定の理由

（１）ねらいや指導内容について

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり，友達関係は共に学んだり遊んだりすることを通して，互いに影響し合って構築されるものである。

児童にとって，友達関係は最も重要な人間関係の一つである。よりよい友達関係を築くには，互いを認め合い，学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い，協力し，助け合い，信頼感や友情を育んでいくことが大切である。そして，学校生活を楽しいものにするためにも，温かい人間関係に満ちた仲間づくりをすることが何よりも大切である。そこで，困っている友達がいれば助けたり，がんばる友達を励まし，その成果を共に喜び合ったりして仲よく生活し，助け合おうとする心情を育てたいと考え，本主題を設定した。

（２）児童の実態

本学級の児童は，明るく元気いっぱいで，何事にも意欲的に取り組んでいる。集団生活にも慣れ，仲よしの友達も増え，遊びも活発になってきた。帰りの会では「今日のきらきらさん」として友達のよかったことやがんばりを発表し，一人一人を大切にしている。しかし，まだ考え方が自分中心で相手のことを考える気持ちが足りないため，けんかになることもある。また，よいか悪いか自分で考えるより友達につられて行動してしまうことも見られる。

そこで，友達のことに目を向け，相手の気持ちを思いやることの大切さに気付かせ，友達と仲よく助け合ったり，困っている友達に優しく声をかけたりすることができる心情を育てていきたい。

（３）教材について

（教材名「二わのことり」出典：光文書院）

みそさざいは，山奥に住むやまがらから誕生会に招待されていた。迷ったけれど，他の小鳥たちといっしょに梅の林のきれいな明るいところに住むうぐいすの家へ音楽の稽古に行ってしまう。しかし，みそさざいは，ひとりぼっちのやまがらのことが気になり，そっと抜け出してやまがらの家へ行く。やまがらは，みそさざいが来てくれたことにたいへん喜び，みそさざいも「来てよかった。」と思う内容である。

鳥たちの姿は，友達の気持ちを考えて迷ったり，つい周りに合わせて行動してしまったりと，児童の普段の生活に近く共感しやすい。登場人物に十分共感させることで，友達の喜びが自分の喜びにつながることに気付かせたい。また，友達を思って行動することのよさに気付かせ，ねらいとする価値に迫りたい。

（４）語り合い・深め合う学びのための工夫

指導に当たっては，みそさざいの心情を共感的に捉えながら学習を進める。まず，児童が話の内容に興味をもち，自分事として考えが深まるように，場面絵を板書として活用し，話の内容を確認しながら教材を読み聞かせる。

展開段階で，みそさざいの思いに共感したり，自分の体験と重ねたりして考えた「うぐいすの家での音楽の練習」と「やまがらの誕生日のお祝い」で迷う気持ちを心情スケールを用いて交流する。そして，はじめはうぐいすの家に行ったが，途中でやまがらの家へ行った理由を考える。その際，「みそさざいは，うぐいすの家でどんなことを考えていたのでしょう。」という発問や，中心発問での，誕生祝いをしているみそさざいとやまがらの役割演技を通して，「友情，信頼」の価値に迫ることができるようにする。

終末段階では，どんな友達になりたいかを話し合い，これからの生活において友達と仲よくし，助け合っていこうとする意欲をもつことができるようにする。